

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1127
施設名	光明高倉保育園
施設所在地	府中市分梅町 1-31
法人名	社会福祉法人多摩養育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

物の大小について

<テーマの設定理由>

日ごろから子どもたちの身近にあるもの、興味関心を持っているものに対して、さらに理解を深めたいと考えたため。

### 2. 活動スケジュール

2025年8月～2026年2月

### 3. 探究活動の実践

<活動の内容>

(準備した素材、道具)

くるくるチャイム、ジャラットプレート(乳児クラスの玩具)、ブロック、大小のプラスチックのカップ、折り紙、ビーチボール、テニスボール、バスケットボール、顕微鏡、デジタルスケールなど

(準備した環境 一例)

- ・0歳児と2歳児で同じおもちゃを遊びの中で子どもたちがどのような使い方をしているか、どのような言葉を発しているかなどを観察する。
- ・0歳児 大きなカボチャと切ったカボチャを用意し、見た目の違い、感触の違い等を楽しむ。
- ・2歳児クラス ブロックやプラスチックのカップ、大きいもの小さいものを用意し、物の大きさをどのくらい意識しているか観察する。
- ・折り紙で大きいカブトムシ、小さいクワガタを作り、比較しながら遊ぶ。
- ・0～5歳児で大小、重さ、感触の違うさまざまなボールや大きさや重さ、感触の違いなどを見える化するもの（顕微鏡、デジタルスケール）を用意し、子どもたちがどのような反応をするか、発達の状況によって違いがあるのかなど、観察できるようにした。

#### 4. 探究活動の実践

(活動の内容 一例)

- ・穴に入るかな (0歳児) どうして入らないのかな (2歳児)
- ・食育 かぼちゃつぶし (0歳児)
- ・大きさの違うボール遊び (0歳児)
- ・カップの大小 ブロックの大小 (2歳児)
- ・大きい小さい (3歳児)
- ・一番小さいのはどれ? (1歳児)
- ・はかりを使ってみよう (3～4歳児)

(活動の様子、子どもたちの姿①)



貯金箱のような穴の開いたおもちゃにいろいろな形のおもちゃを入れようとしています。どの大きさのものなら入るか確かめていました。  
(0歳児)



色々な遊び方を試す中で、プラスチックのボールを穴に近づけてみようとしていました。保育者が「入りそう?」と聞くと「入らない」と答えていました。(2歳児)

(活動の様子、子どもたちの姿②)



「カブトムシの方が大きいから強いんだよ」と折り紙の大きさを比較しながら、大きいものはどんな特性があるのか考えて、お話してくれました。(3歳児)



「絶対にこれが一番重い。」とたくさんあるボールの中から自信を持って選んでいました。それからデジタルスケールにボールを乗せ、出てきた数字を見ながら頷いていました。(5歳児)

## 5. 振り返り

- ・子どもたちは遊びを通して、自ら物の大小について、考え、どっちが大きいかななどを見極め、穴に物を入れようとして、比較したりしていました。さらに「こっちが大きい！」など言葉を使うことで物の性質について確認をし、理解を深めているように感じました。
- ・年齢の異なる子にあえて同じおもちゃを使える環境を用意することで、そのおもちゃの使い方の違いから、子どもたちが何を考えているかを理解するヒントになることがわかりました。
- ・最初は物の大小をテーマにしていましたが、進めているうちに大きいものは重いというおおよその特性があるが、大きいけど軽い、小さいけど重いものについて、子どもたちはどのように認識するのだろうかというところから、重さについてもテーマの中に組み入れました。デジタルスケールを使い、数字が動くのを楽しむという数字への興味を示す子や数字をある程度理解し、いろいろなものを乗せてみて重さの違いを確かめる子など、物の大小から子どもたちの興味をさらに広げることができました。
- ・どのような環境を設定するか、保育者たちで考える中、子どもたちがテーマの意図通り動いてくれるかを心配する保育士がいました。しかし、仮に想定した結果がうまくでなかったとしても、うまくいかなかったというデータは残る。結果が無駄になることは全くないことを職員間で確認し、いろいろなチャレンジをすることができました。今回の取り組みがこれからもいろいろなことにチャレンジしていく職場風土の醸成につながったと思いました。